



©Yuki Asada

シルクロードから生まれた絹製品

一面に広がる砂漠を歩いていると突然、目の前にオアシスが現れた。青々と茂る木々から放たれる光を浴びて、現地の女性が身にまとう民族衣装が色鮮やかに輝く。その光景はまるで、古代シルクロードが栄えた時代にタイムスリップしたかのような。

ここは、ウズベキスタン東部に位置するフェルガナ。かつてはシルクロードの中継地としてにぎわい、文字通り、絹産業と養蚕業が盛んな地域だ。丁寧に糸を紡いでつくられた“アトラス”と呼ばれる布地を、この地域の女性たちは何とも粋に着こなす。

しかしソビエト連邦崩壊後、都市部への開発の集中、中国製品の台頭な

どにより、地方の伝統産業は衰退の一途をたどることに。フェルガナ地域の養蚕農家も激減し、出稼ぎに行かざるを得ない状況になっていた。そこで2009年からJICAの草の根技術協力事業を通じて、東京農工大学が高品質な繭の生産と絹製品の普及を目的とした事業を開始。男性が育てた蚕を使って女性が商品開発に取り組んでいる。「彼女たちは皆、とてもおしゃれです。次々とアイデアが出てきて、日本で販売できるまでの品質になりました」と川端良子准教授は話す。

シルクロードから運ばれてきた雑貨の数々。手に取ると、シルク独特のつや感が気持ち良い。



フェルガナ地域の女性たちの絹製品は、成田国際空港と関西国際空港の「一村一品マーケット」でも購入できる

★ポーチを5人、パレットを3人、シュシュ、ランチョンマット、コースターを各1人にプレゼント! 詳細は38ページへ

